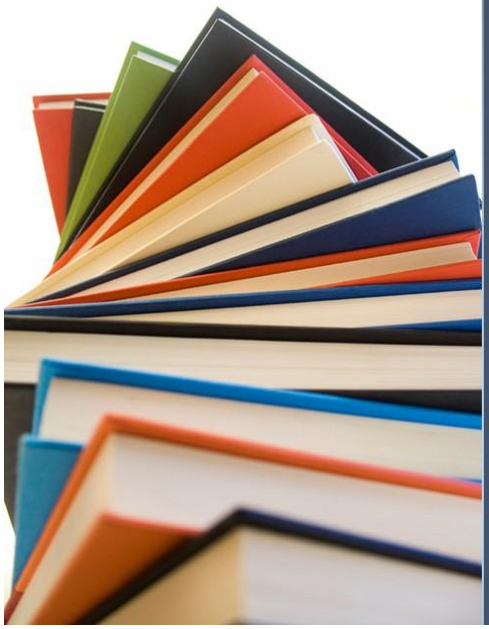
Center for the
Multicultural
Public
Sphere
Working Paper 2023 No. 4-4



１１月４日
多文化公共圏実践演習（グローバル）
オンデマンド＋17：00～17：30

尾形祐美

日本語のオノマトペについてチェコで考える

子供から大人までを対象にした
オノマトペのワークショップについて

日本のオノマトペについてチェコで考える

２０２２年１１月４日　尾形祐美

そもそもの始まりは

机にべたべたしたものが付いていたとき、「うわ、なんかべたべたする」という、日本人としては当たり前で、しっくりくる表現を言いたかったけれど、チェコ語では、「なにか張り付く感じのするものがある」という表現しか思いつかなかった。

べたべた、は、べたべた、である、という感覚。

日本人にとってオノマトペは日常会話に欠かせない便利なもの。
チェコのオノマトペは？という疑問。

チェコ語にも多少のオノマトペ、つまり、擬音語、擬態語はあるが、日本語に比べるととても少ない。

例：ŠPLOUCHY ŠPLOUCH　シュプロウヒ　シュプロウフ

水を跳ねる音（ぱしゃぱしゃ、ぴしゃぴしゃ、ばしゃばしゃ、などに近い意味）

MŇAU　ムニャウ　猫の鳴き声

BÚ　ブー　牛の鳴き声

BZZ　ブズズ　虫の羽音

ŽBLUNK

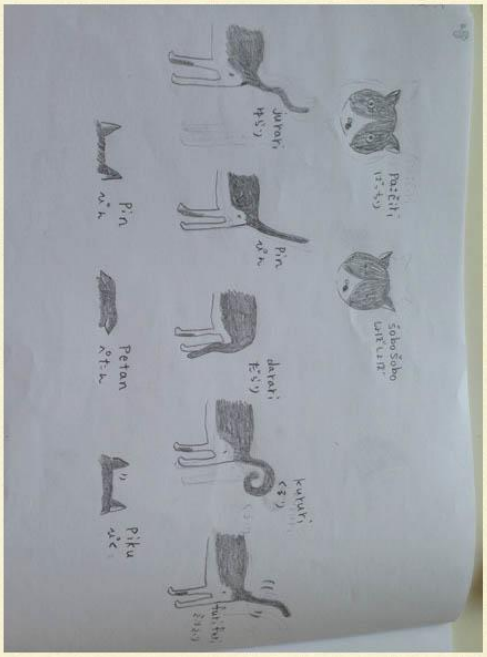
ジュブルンク　水に何かが落ちる音（ちゃぷん、じゃぼん、などに近い）

HOP ホップ　何かが飛び跳ねる様子（ぴょん）

日本語のオノマトペは自由自在

- 日本語の性質上、ほとんどの文字が母音で終わるので、組み合わせやすく、かつ、微妙に違うが似ている音の組み合わせが生まれたり、小さな差のある言葉をつくりやすいのでは。
- 俳句を始め、歳時記、自然をモチーフにした伝統文化が多く、聞こえる音だけでなく、ものの様子、自然の様子を音として表現しようとする意識が自動的に育ってきた結果が、オノマトペの多さではないか。
- 人や場合によってはそのときに合ったオノマトペを自作し、より的確に感覚を伝える、ということが日本語では普通に行われている。

- このことを、子供向けギャラリーを企画しているチェコ人の知り合いに話すと、とても面白い、という反応だったので、絵本を作ることに。
- 猫を主人公にしたおはなしをベースに、さまざまな世界の「音」を日本語のオノマトペでどう言うか、を紹介していく絵本。
- 案の時点では、猫の動きや猫が移動しいろんな場所のオノマトペを見つける、という構成。

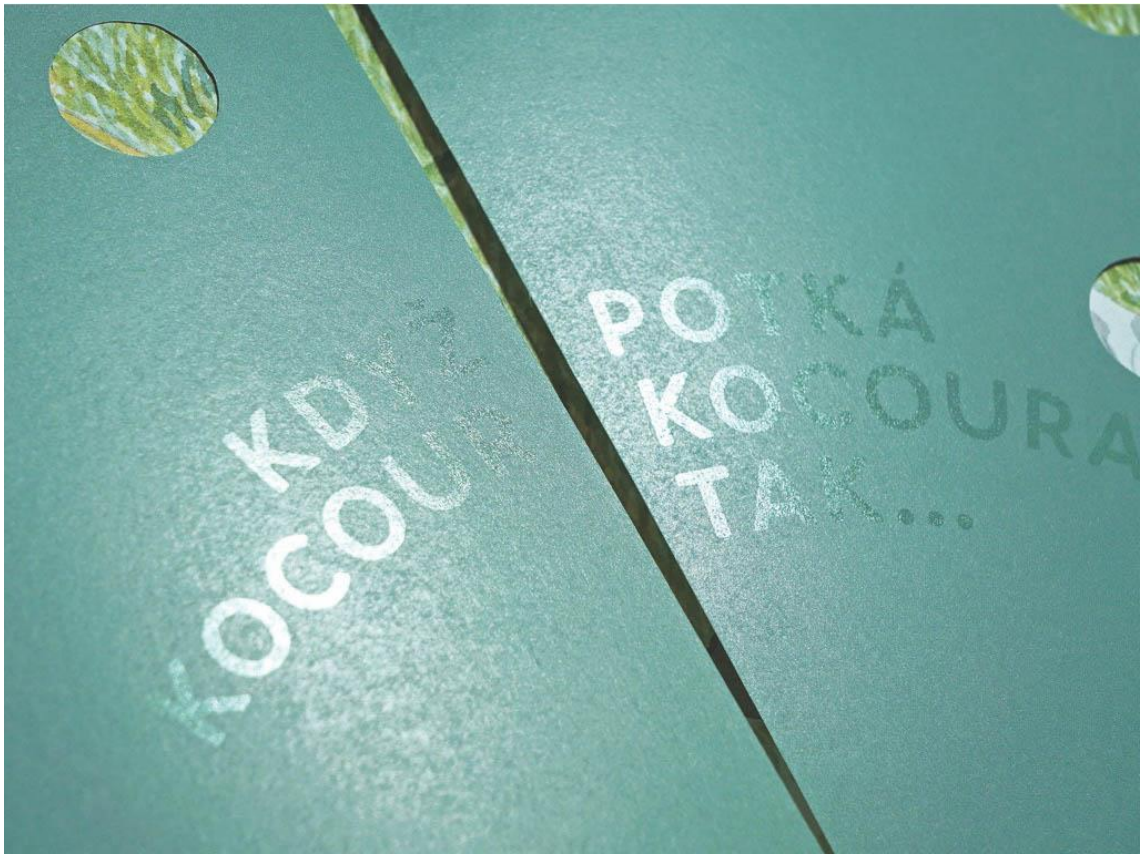


日本語のオノマトペを紹介するだけの本となると、日本語を勉強していたり、日本語に関心のある読者だけが対象となってしまい、幅が狭くなってしまうのでは。
子供のギャラリーでワークショップをするにあたっても、なぜ、日本語のワークショップ？という疑問が浮かんでしまう。

より様々な層が楽しめ、「日本語のオノマトペ」のもつ面白さを自国の言葉に当てはめて考え直すきっかけを作れる絵本、にするための工夫が必要。

・前書き、後書きのような形で、本編の前後に、絵本の背景や意図を少し説明。
・ただページをめくるだけでなく、絵探しゲームのように、絵を元にそれに当てはまる言葉を見つける仕掛けを入れる。
・各ページに、さりげなく、「あなただったらこういうときどんな言葉をつかう？」「チェコ語ではどういう風に言うかな？」などの具体的な質問を入れ、読者がより能動的に自信の母語に当てはめて考え始めるきっかけを作る。

ぱっちり
Když jsou oči
dokořa otevřené
(když se „valí oči").
しょぼしょぼ
1 Když člověk nemůže
udržet únavou oči
otevřené (klíží se mu)
a hodně mrká.
2 Když je člověk
bez energie, unavený
a cítí se mizerně.
3 Když prší jemně
a melancholicky.
べたん
1 Když někdo ztěžka
dosedne. Když něco
slehne (např. uší kočky).
2 Když něco nalepíme
(známku).
ぴょん
1 Když někdo vyskočí
kolmo vzhůru. Když se
něco napne do jedné
linie (např. provázek).
2 Když člověk něco spatří
a v hlavě se mu rozsvítí.
3 Když člověk něco
pochopí úplně
a do hloubky.
PA-ČIRI
ŠOBOŠ
JURARI


KDYŽ
KOCOUR
POTKÁ
KOCOURA
TAK...

ぶーん
Bzučení křídel hmyzu za letu (v češtině např. BZZ).
Bzučení krávy (v češtině např. BÚ)
Bzučení krávy (v češtině např. MÚ, nebo MÚ).
ほうほう
1 Psí štěkání (v češtině např. HAF HAF).
2 Když někdo nahlas pláče (je rozesmán) a nevnímá při tom ani okolí.
Pokud mys (v češtině např. PIŠK).
2 Když se vrzá opakovaně kuličkou tužkou (v češtině např. SKRK), anebo když někdo druhého opakovaně kopne (ub).
ぽっぽー
1 Vrkání holuba (v češtině např. VRKU).
2 Houkání lokomotivy vlaku.
Když se něco či někdo lehce plaché (v češtině např. PLÁČ).
Když něco jemného (v češtině
Když větší pták mává křídly. Když něco sochého či uchlého padá (např. list ze stromu či papír z ruky).
Šplíchání, švitření vrabce.

絵本を元にオノマトペワークショップ

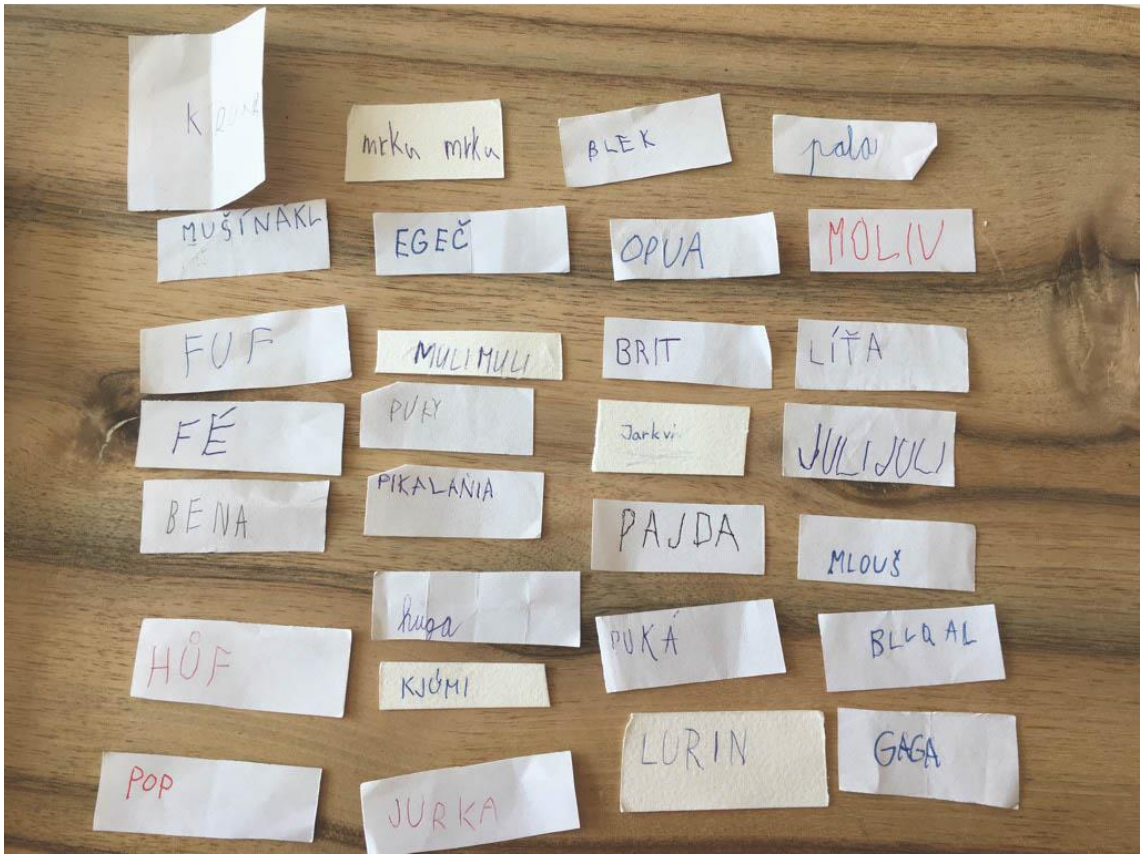
コロナ下１年目でのオンラインワークショップの試み

チェコで一番大きな、子供のためのギャラリーSLADOVNA（スラドヴナ）での、オンラインプログラムの一環として、オンラインワークショップを企画。

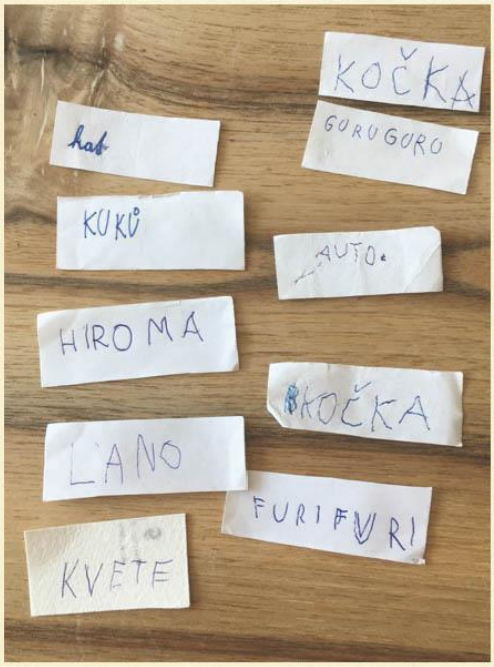
主にオンライン授業が行われていた中、学校の文化的活動として、チェコ中さまざまな場所の学校から、授業内でのオンラインワークショップを申し込まれた。

学校での対面授業が可能になると、スラドヴナでのオンラインワークショップとは別に、私とチェコ人の夫で学校や保育園を対象にしたワークショップを行ってみる。

オンラインでは動画に音をつけてみよう、が中心だったが、対面のワークショップでは、「動き」を中心に構成した。



・オノマトペは説明がしづらいので、絵本の例を読み、感覚で掴み、自分で作ってみる、という形でワークショップをした。
感覚でつかめる子と、そうでない子がいる。
写真はその例。



・日本の漫画のチェコ語訳版をみると、オノマトペも訳されている。観察してみると、動詞などと関係の強い単語、つまり、音というよりも意味から作られている場合が多い。

・言語感覚として、日本語のオノマトペは、音を言葉に表現という点では、他国の言語と共通した要素がある。動きや様子を表す擬態語となると、かなり特殊な要素を含んでおり、文化圏によっては全く新しい感覚であることが実体験的にわかった。

→その特殊性に、子供達に、世界に対する新しい感覚を呼び起こすヒントがあるのでは。
（ワークショップを体験した大人や教師たちの感想）

俳句とオノマトペ

ぱちぱちと椿咲けり炭けぶり

小林一茶

ざぶりざぶりざぶり雨ふるかれの哉

小林一茶

ばらばらと臑(すね)に飛つく蝗(いなご)哉

小林一茶

ぬっぽりと月見顔なるかがし哉

小林一茶

春の海終日(ひねもす)のたりのたり哉

与謝蕪村

チェコ人の句会PUPALKAで
オノマトペを題材にした句会の試み

２０１９年１１月
（まだ絵本の構成作業中のころ）

のびのび

1. なんさまたげもなく伸びたり成長するさま。
2. 気持ちや性格、行動などが自由で余裕あるさま。

ごろごろ

1. 雷とどろきひびく音。
2. ネコなどがよろこんでどを鳴らす音。
3. 丸いも、大きいも、重いもなどが転がってゆく音。また、そのさま。
4. あちこちに、もが雑然と、また無造作にころがっている様子。転じて、何もせずに寝転がってすごしているさま。
5. 小さいもが目に入って違和感あるさま。

「のびのび」は意味を伝え、「ごろごろ」は意味を伝えずに俳句を作ってもらった。

巣箱下 のびのび生える 向日葵ふたつ

POD KRMÍTKEM ROSTOU
NOBI NOBI
DVĚ SLUNEČNICE

ヤロスラフ・クリメシュ

ごろごろと 燃えつきた幹 雨の中

GORO GORO
PŘEHOŘEL KMEN
NAVZDORY DEŠTI

ヤロスラフ・クリメシュ

日本語のオノマトペはとても不思議な魅力的なもので、意味と感覚の間のような、すきまの言葉のような。
別のアプローチでの本や展示、ワークショップの企画もチェコの美術館で進行中。
つかみどころのない感覚的であることが、日本語のオノマトペの最大の特徴だと思うので、じっくりと考え続けたいと思う。

オンライン国際交流 2022／チェコ共和国

松井貴子「多文化公共圏実践演習（グローバル）」

（多文化公共圏フォーラムとしては未開講）

尾形祐美「南チェコでことばについて考える」

「日本のオノマトペについてチェコで考える」講義資料

編集　松井貴子／宇都宮大学国際学部日本文化論研究室

発行　宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

2023 年 11 月 30 日発行